

『愛されている子どもらしく②』

'22/12/11

聖書箇所: エペソ人への手紙 5章 1-7節 (新約 p.378-)

エペソ書 4章に入ってからと言うもの…、聖書のみことばは何度も何度も、こう訴えています、「神様によって救われたあなたたちクリスチャンは皆、当然、その救われた者にふさわしい生き方があります。だから、救われる前に歩んでいたような生き方を…、また、行ないを続けるべきではない！」って…。ひょっとしたら、ある方は、ここ最近のメッセージを聞いて、もう、うんざりしておられるかも知れません。「何と律法的な…、これは聖書が教える神様の恵みではない！」って…。

しかし、神様のお言葉である聖書は、どのように教えてくれているのでしょうか？ **「エペソ 4:1 をご覧ください。」**
『**召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。**』とありますでしょ。…でも、「たった1個所じゃないか！」とおっしゃるかも知れません。しかし、どうぞ、エペソ 4:17 以降を思い出してみてください。そこで教えられてあったのは、明らかに、救われた者と救われていない者との外面的な…、生き方や行ないの対比でしたよね！ **エペソ 4:22-24 に、『古い人を脱ぎ捨てるべきこと、…新しい人を身に着るべきことでした。』**とあるように、神様によって救われたら、その人は救われる前と比べて変わることが当然で、明らかに、救いが、その人の生き方を大きく変えてくれるということを教えてくれています。それこそが神の教えなのです！

だから、エペソ 4:2 以降では、クリスチャン同士の一致や霊的な賜物のことについて教えられてありました。何故なら、私たちが変わっていくために…、言い換えれば、クリスチャンとして成長していくためには、クリスチャン同士の交わりや、賜物を用いていくことなどが必要だからです！もう既に学んできたことですが…、多くの場合、救われた人たちは教会に集い、そこで成長させられていきます。皆さんも、そうだったでしょ？確かに、みことばの学びは必要です！ひょっとしたら、聖書の学びだけなら、こうやって、オンラインで学びを受けられるかも知れません。しかし、ある時には、人の証しを聞いたり、一緒に悩んだり、苦しんだり、共に奉仕したり、あるいは、励ましあったりして、多くのことを私たちは教会の中で学んできたはずですよ！

でも、ある方は、こんな風におっしゃいました、「本当に、今聞いているメッセージが正しいかどうか、どこの教会にも行かずに、自分一人になって考えてみたい…」そうおっしゃって、その方は、恐らく、今も、どこの教会にも行っておられないと思います。正直、私は残念に思います。…と言いますのは、そういったことが無いように、ここ、エペソ 4章のみことばで、天の神様は、教会に対して、教師である牧師たちを御立てになっただけで、ということが教えられてあったからです。違いますか？

「救われてさえいけば、自分だけで、聖書のみことばを正しく理解できるし、成長していける…」(イヨハネ 2:27?)、そんなことをみことばは教えていません…。もし、そうなら、一体どうして、エホバの証人などを筆頭に、キリスト教と言われるグループの中でも、数多くの異端や矛盾する教えがあるのでしょうか？皆さんだってそうでしょ？…ご自分で聖書を読んだり、学んだりして…、いつもいつも、明確に理解できますか？スツと心に入りますか？…そうじゃないでしょ？何度読んでも理解できなかったり、どうもピンと来なかったりするところってあるじゃないですか。

だから…、**Ⅱペテロ 1:20-21 などのみことばは、こう教えてくれているのです。『20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。』**⇒このように…、『**神からのことば**』である聖書を、誰も彼もが好き勝手に解釈することを、明らかにみことばは禁じています。それは、神様の教えを正しく理解しないで…、違ったことを信じたり、また、間違ったことを教えたりすることが少なくなるためです。実は、そういったことのためにも…、エペソ 4:2 以降で語られていたような、教会における一致や賜物の話…、また、神によって立てられたリーダーたちの働きが大事なのです…。

命題: キリストを模範とした歩みとは、どのようなものでしょうか？

さて、前回から私たちは、エペソ 5章を学び始めました。前にも言いましたが、5章に入ってからでも、基本的な流れは 4章までと同じです。救われた私たちクリスチャンたちに対して…、天の神様はどんなことを願っておられるのでしょうか？神様に愛されている子どもらしい生き方とは、どのようなものなのでしょう？私たちの主であられるイエス・キリストを模範とした人生とは、どのようなものなのでしょう…、ということをお私たちは学んでいきます。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、今日のみことばであるエペソ 5:1-7をお開きください。まずは、先週に学んだ 1-2 節だけを読ませていただきます。

- 1 ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。
- 2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。

I・本物の愛ゆえに、自分自身を捧げる！(1-2 節)

イエス・キリストを模範とした歩みとは、一体、どのようなものなのでしょう？⇒前回に学んだことは、**本物の愛ゆえに、自分自身を喜んで捧げる！**ということでした。今日は、まず、先週に学んだことを簡単に復習していきましょう。

皆さん、お分りになってくださいますか？ここ、1 節でも、『**愛されている子どもらしく…**』とか、『**神にならう者となりなさい。**』という言葉がありますでしょ？その直前の 4章 32 節でも、『**…神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように…**』と書かれてあります。また、5章 2 節でも、『**愛のうちに歩みなさい。…**』と命令形で書かれてありますが、その根拠は何でしょう？⇒それは、この 2 節後半にあるように…、『**キリストもあなたがたを愛して…**』と教えられてあるように、…つまり、イエス様が模範なのです！…あのイエス様が私や皆さんへの愛のゆえに、御自分のいのちさえ犠牲にしてくださったことを模範としなさい！ということですよ。つまり…、ここ数節の短い箇所だけでも、何度も…、「神にならう者となりなさい！キリストを模範としなさい！」と教えられているのです。いえ、命じられているのです！

前回、私たちが学んだことの中に、“本物の愛”に関する説明がありました…。聖書の中で、アガペー(ἀγάπη)というギリシヤ語で表現されるころの、神様の愛のことです。皆さん、覚えてくださってますか？

①まず第一に、聖書が教える本物の愛とは“感情”ではなく、“意志”だということでした。…つまりは、「愛そう！」とする、その者の選択だと言うのです！…良いでしょうか、皆さん？天の神様は、私たちのことを、本当に可愛らしい…、愛すべき存在だったから愛してくださったのではありません！増して、私たち人間の側に救われるべき価値があったなんて、聖書のみことばは一切教えていません！

この聖書のみことばが教える、救われる前の私たちに対する正当な評価は、例えば、エペソ 2 章のみことばで言うならば、『**生まれながら御怒りを受けるべき存在であり(エペソ 2:3)、ローマ 1 章のみことばで言うならば、『**神の怒り**』を受けて当然の存在であった(ローマ 1:18)です！…そうじゃありません？もしも、そうでなかったら…、つまり、私たち人間が救われる“べき”存在で、私たち人間の側に救われるべき理由 & 価値があったとするなら、天の神様が多くの者たちのことを永遠の裁きへ送られることが、不当な裁きを下していることになり、神様が義なる御方…、聖なる正しい存在ではなくなってしまいます…。**

ですから、天の神様が私たち人間に対して注いでくださった愛は、自然に湧きあがってくるような…、所謂、感情的なものでは決してありません！それでも、神様は、私たちのことを愛してくださったのです！それこそ、この聖書のみことばが教える“恵み”ですよ！言い換えれば、それは、神様の側の選択でありました…。だから、その神様を模範とすべき…、私たちクリスチャンに対しても、神は同じことを教えるのです、「あなた

の選択でもって…、あなたの意志でもって人を愛していきなさい！」って…。

②その次に私たちが学んだことは、「犠牲」でした。…と言いますのは、本物の愛には、必ず、何らかの犠牲が伴うからです。実は、「愛の大きさ」というものは、その犠牲の大きさによって量ることができるのではないのでしょうか？…例えば、あのイエス様が、私たち滅ぼされるべき人間に対して、捧げてくださった犠牲は、何と、ご自分の命でした！ヨハネ 15:13 に、『人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。』と教えられてあるように、イエス様は最高の愛でもって、私や皆さんのことを愛してくださったのです！…そのことを、天の神様は喜んでくださいました。だから、今日のみことばの 2 節には、『香ばしいかおり…』とあるのです…。

皆さん、覚えてくださっていますか？…Ⅱサムエル記の最後に、どんなエピソードが紹介されてありましたか？どうぞ、Ⅱサムエル記 24:17-23 をご覧ください。『17 ダビデは、民を打っている御使いを見たとき、【主】に言った。「罪を犯したのは、この私です。私が悪いことをしたのです。この羊の群れがいったい何をしたのでしょうか。どうか、あなたの御手を、私と私の一家に下してください。」18 その日、ガドはダビデのところに来て、彼に言った。「エブス人アラウナの打ち場の上って行って、【主】のために祭壇を築きなさい。」19 そこでダビデは、ガドのことばのとおり、【主】が命じられたとおりに、上って行った。20 アラウナが見おろすと、王とその家来たちが自分のほうに進んで来るのが見えた。それで、アラウナは出て来て、地にひれ伏して、王に礼をした。21 アラウナは言った。「なぜ、王さまは、このしもべのところにおいでになるのですか。」そこでダビデは言った。「あなたの打ち場を買って、【主】のために祭壇を建てるためです。神罰が民に及ばないようにするためです。」22 アラウナはダビデに言った。「王さま。お気に召す物を取って、おさげください。ご覧ください。ここに全焼のいけにえのための牛がいます。たぎぎにできる打穀機や牛の用具もあります。」23 王さま。このアラウナはすべてを王に差し上げます。」アラウナはさらに王に言った。「あなたの神、【主】が、あなたのささげ物を受け入れてくださいますように。」』

⇒本当は、ここ 24 章の初めから説明したいのですが、今日は、時間の関係もあって、それはできません。しかし、簡単に言いますと、この時、ダビデは、神様の前に罪を犯してしまったのです。それは、神様の前にへりくだって、その神様にだけ信頼するのではなく…、愚かな人間の数、兵隊の人数を誇ろうとしたのです。もちろん、それは、神様のみことばではありませんでした。…それゆえ、ダビデは、神様からの裁きを受けて、そのことを神様の前に悔い改めたのが、今読んだ 17 節のみことばです。

その後、ダビデは、預言者ガドの勧めに従って、神様のための祭壇を築いて、神様に捧げ物を捧げようとしてします。その時、アラウナという人物が、神様とダビデ王のために、何と有難いことに、22 節にあるように、『王さま。お気に召す物を取って、おさげください。』ということを出してくれました。何と、アラウナは、①その土地と、②生贄のための牛 1 頭や③打穀機、それに、④牛の用具など、すべてをダビデのためにお捧げしますということを出してくれたのです。…しかし、それに対して、ダビデは、どう反応したでしょう？…どうぞ、24 節以降をご覧ください。

『24 しかし王はアラウナに言った。「いいえ、私はどうしても、代金を払って、あなたから買いたいのです。費用もかけずに、私の神、【主】に、全焼のいけにえをささげたくありません。」そしてダビデは、打ち場と牛を銀五十シケルで買った。25 こうしてダビデは、そこに【主】のために祭壇を築き、全焼のいけにえと和解のいけにえとをささげた。【主】が、この国の祈りに心を動かされたので、神罰はイスラエルに及ばないようになった。』

⇒皆さん、分かってくださいましたでしょ？…何と、この時、ダビデ王は、「ただで(＝つまり、何の犠牲も払わずに)、神様のための生贄を捧げたくない！」と言って、捧げ物をするための場所と生贄のための牛の代金を支払ったのです。…そうして、それを御覧になった主が心を動かされて、神様の裁きは、そこで留まったというのが、Ⅱサムエル記の終わりです。

いかがです、皆さん？…このように、もしも、私たちの神様に対する思いが本物であるなら、私たちは喜んで犠牲を払おうとするものではありません？…逆に、私たちが神様への犠牲を捧げることを惜むようなら、果たして、神様に対するその思いは本物だと言い得るでしょうか？また、天の神様は、そんな私たちの信仰を…、あるいは、私たちの、そんな思いを喜んでくださるのでしょうか？

Ⅱ・偽りの愛を避け、満足を覚えよ！(3-7 節)

それでは、2 番目のポイントを見ていきましょう。イエス・キリストを模範とした歩み…、その 2 つ目のポイントは、『偽りの愛を避け、本当の満足を覚えなさい！』ということです。今日のみことばである、エペソ 5:3-7 には、こう記されています。

- あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむさぼりも、口にするこさえいけません。
- また、みだらなことや、愚かな話や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良くないことです。むしろ、感謝しなさい。
- あなたがたがよく見て知っているとおり、不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者——これが偶像礼拝者です、——こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。
- むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るので、
- ですから、彼らの仲間になってはいけません。

●本物の愛 vs 偽りの愛

前回も言いましたように、愛という言葉は、かなり誤解されやすいものです。…と言いますのも、ここ日本でも、多くの人たちや、特に若者たちが「愛」という言葉を使い使いますが、多くの場合…、それは聖書が教えるような「本物の愛」と呼べるようなものではないからです。

先週学んだように…、聖書が教える本物の愛とは、①第 1 に、意志や選択であり、②第 2 に、喜んで犠牲を払うということです。しかし、現代の多くの人が考える愛というものは、意志ではなく、感情的なものです。だから、多くの人は言うのです、「もう、愛が無くなってしまった…。もう一緒に居たくない…」って…。自分の意志で…、あるいは、選択でもって、人を愛そうとはしないのです。「愛したいから愛する…」、まあ、言い換えれば、自分自身ではなく…、感情に振り回されてしまっているのです。聖書の教えるとは、ほとんど正反対のものです…。

もう 1 つ…、犠牲ということにおいても、そうです。聖書の教える愛とは、あなたがどれ程の犠牲を払えますか？というものです。しかし、最近では、自分が愛の故に、犠牲を払おうとするのではなく…、相手側が自分のために、どれ程、犠牲を払ってくれるのかということに、関心を払う傾向があります。自分が、人のために何らかの犠牲を払ったり…、我慢をしたりすることを、あまり尊いとは思っていないように、私などは思ってしまう。

ま、正直に言ってしまうと、愛というものが、感情的なもの…、愛したい時に愛するという感じですから、あまり、犠牲という感覚は無くても当然かも知れません。しかし、特に、若い人たちの愛は、それ故に…、かなり不安定で、一時的な愛じゃありませんか？…「この人のことをムチャクチャ愛してる！」と言っておきながら、その 1 週間後、1 ヶ月後には、「もう、別れた！」という変わり身の早さには、ただただ驚かされます…。正直、そういったこともまた、聖書の教える愛とは、全く正反対の傾向ですよ？

そういったような、本物の愛と“偽りの愛”との区別がつかない者たちに対して、今日のみことばは3節以降でこう教えてくれています。まず、『不品行』という言葉ですが、ここでは、「ポルネイア」(πορνεία)というギリシヤ語が使われています。日本語でも、「ポルノ(雑誌)」などと言われたりしますが、その語源ともなった言葉です。この言葉は、結婚したパートナー以外と性的な関係を持つことを指しています。そのため、いくら感情が高まっていようと、夫婦関係以外で、性的な関係を持つことは、明らかに聖書が禁じていることであることは言うまでもありません。

こういったことは、恐らく、女性以上に男性が…、また、特に、若い人たちに、こういった傾向や誘惑が強いだろうと思います。でも、皆さん。覚えておいてください。神様は、明らかに、『不品行』、つまりは、結婚関係以外でのそういった関係を厳しく禁じています。特に、最近の若い人たちは、こういったことを平気で言います、「愛しているなら、結婚なんてしなくても、性行為をしても良いじゃないか！」って…。しかし、先程、お話ししたように、それは、聖書が教える本物の愛ではなくて…、偽りの愛であり…、単なる欲望、情欲といったものです。この後に続く、『汚れ』や『むさぼり』も同じようなものであると言えます。ここで、『汚れ』(ἀκαθαρσία)と訳されてある言葉は、「純粋、清潔、聖い」という意味の反対語です。また、『むさぼり』(πλεονεξία)とは、「貪欲」のことですが、ギリシヤ語の辞典を見ますと、「もっとも自分のものとして取り込みたい欲望、他人の権利を踏みかじってまで自分の所有を増やしたい欲望、取ってはならないものまで無理に手をのばして取りたい欲望」と説明されておりました…。

こういったような欲望や罪は、いつの時代であっても…、すべての人が持っているものであると、聖書は教えます。しかしながら…、特に、最近の若い人は、こういった傾向、あるいは、誘惑が強いと思います。若い…、特に、独身の皆さん…。皆さんは、そういった中であって、自分の身を清く保つ必要があります。今の、この世の中は、そういったことを簡単に扱い…、笑い話にする傾向さえあります。しかし、どうぞ、この世の中に惑わされ…、流されてしまうのではなく、神様の前に正しくあってください！

ある意味、私が、ちょうど良い試金石になると思う…、つまり、皆さんの信仰やその思いがどれ程のものであるかということが試されるのは…、そういったような誘惑にあった時です。…クリスチャン同士の未婚者という前提でお話しますが…、もしも相手があなたを、そういった誘惑に誘いこもうとするなら、その相手は、意志の強い…、霊的に成熟したクリスチャンであるとは言えないでしょう。…例え、どれ程、聖書の知識があつて…、多くの賜物を持っていたとしても、です。その人が救われていない、とまでは言いません。しかし、その相手は結婚した後も、感情に流されて…、間違いを犯しかねません。あなたは、結婚した後も、相手の不倫や簡単に浮き沈みする感情などによって、悩まされる危険性が高いと考えることができます。

また、その逆のパターン…、自分が誘惑にくじけてしまっている場合も同じです。しっかりと、自分自身に問いただしてみてください。「お前は、本当に、相手のことを、本物の愛で愛しているのか？」って…。恐らくは、本物の愛よりも偽りの愛…、アガペーの愛よりも情欲の方が勝ってしまっています…。もっと言えば、神様のみことばよりも、自分の願い…、それも、淫らな思いの方が勝ってしまっています。そんなことで…、結婚した後、何十年も、神様を第一に愛し…、神様の愛でもって、相手のことを愛し続けていけるのでしょうか？…まずは、あなた自身がもっと霊的に成長していくことです！誘惑に弱いなら、弱いなりに、そういった環境に自分を置かないことです。ひょっとしたら、早く結婚することも方法の1つかも知れません。

今日、若いクリスチャンの皆さんに、私から忠告したいことは、一時の誘惑やその時の軽い判断で、一生の問題を決めてしまわないでください、ということです。どうぞ、あなたの一生のために…、後々で、後悔しないために、十分過ぎるほどの手間や時間を掛けて、一生の問題(特に、結婚の問題など)を決めていってください…。

● 聖書の 教え & 勧め

今日のみことばは教えます、『そのようなことは良くないことです。』(エペソ 5:4)、『口にすることさえいけません。』(エペソ 5:3)って…。4節後半には、こうあります。『むしろ、感謝しなさい。』って…。つまり、若い皆さんからしたら、まるで「足かせ」か、何かのように思われるような…、「もしも、あなたがクリスチャンなら、クリスチャン以外との結婚を考えるべきではありません！」というような教えや、「愚かな話や不品行を避けなさい！」というみことばは、ひょっとしたら、多くの皆さんからしたら、「なぜ、神様は、私たちに、そんな無理難題を押し付けるのだろうか？」と思われるかも知れません。…でも、そういったような教えがあるからこそ、私たちが本当に救われているかどうか？あるいは、どれが本物の愛で、どれが偽りの愛であるかを見極めることができるのです。言わば、聖書の教えは、そういったものを見抜くためのチェックシートにもなり得るのです。

だって、私たちがそういったような誘惑に陥ったり…、あるいは、負けたりしてしまうのは、神様への信頼や感謝が足りないからじゃありません？…どういふことかと言いますと、「私は、神様のみことばよりも、この人の愛が欲しい！この人と燃え上がるような恋がしたい(≒それを、聖書は「情欲」と言う)！今の夫や妻では満足できない！退屈な毎日から解放されたい！」と思ってしまうのは、要は、今の環境に感謝が無いからです。神様に対する信頼が足りないのです！せっかく、神様が与えてくださっている環境を当然のように思ってしまったのです！自分のご主人や奥さんが頑張ってくれている…、それに対して、感謝しようとせず不満ばかり…。そのくせ…、逆に、自分がしていることは、神様の前に正しくない…、淫らなことであったり…、愚かなことなのです。

どうぞ、今日のみことばの 5節をご覧くださいと、『不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者…』とありますが、ここは3節とは違って…、人物を指しています。つまり、「こういった罪を習慣としている者たち」のことです。瞬間的に、こういったことを考えてしまったとか…、一時的に、そういった罪を犯してしまったというのとは、全く違います。非常に興味深いのは、このみことばが、そういった罪を習慣的に犯し続ける者たちのことを、『これが偶像礼拝者です。』と断定している点です。これは一体、どういう意味なのでしょう？…だって…、今見た者たちは、目に見えるような作り物の神様を拝んだわけではないですよね？

実は、こういった言葉からも、本当の信仰が、こういったものが分かってくるのです…。本物の信仰とは、どの御方を唯一の神様として信じ…、どの神様に拝んでいるのかということだけではありません。どの御方に仕えるのか、ということでもあるのです！ここで教えられているような…、『不品行な者や、汚れた者や、むさぼる者…』という者たちは、神様を第一としていません！彼らからすれば、神様ではなく、自分自身の欲望や罪が第一の優先順位であり、最優先されているのです！つまりは、神様が本来居るべき場所に、神様以外のもの…、欲望や罪を置いてしまって…、それらに仕え、それらに従ってしまっているのです。だから、みことばは、そういった者たちが偶像礼拝者だと厳しく戒めるのです！

それと同じようなことが、ローマ 6:16-18でも教えられています。『16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であつて、あるいは罪の奴隷となつて死に至り、あるいは従順の奴隷となつて義に至るのです。17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、18 罪から解放されて、義の奴隷となつたのです。』⇒あなたは、あなた自身が服従する相手の奴隷であると、聖書のみことばは教えます。あなたは、何を一番に置いていますか？あなたにとって1番の存在とは何でしょうか？あなたの欲望ですか？あなたの夢ですか？あなたの感情ですか？あるいは、ご主人や奥さんですか？それとも…、真の神様でしょうか？みことばが教えるのは…、人は皆、かつて罪の奴隷であつたものが…、『伝えられた教えの規準に心から服従し…』、つまり、聖書の教えに心から同意して、それに従っていこうとした…、つまりは、自分の主人をかつての罪から…、神様以外のものから…、みことば、つまりは神様に変えたことが、あなたを救つたというのです！…違うでしょうか！

どうか、もう1箇所、ご覧ください。コロサイ 3:5-10でも、同じようなことが教えられています。『5 ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。6 このようなことのために、神の怒りが下るのです。7 あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。』

⇒このみことばは、まさしく…、私たちがつい最近、エペソ書でも学んでいることを繰り返し教えてくれています。このみことばは、私たちが従ってしまいがちな罪について警告してくれています。そこにあるのは、『神の怒り』です。私たちは、『古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。』…だからこそ、救われた者たちは、ここにあるように、『造り主のかたちに似せられてますます新しくされ』ていくわけでしょ！どうか、皆さん…、形だけ…、上辺だけの偶像礼拝だけが偶像礼拝だと思わないでください。危険なのは、むしろ…、私たちの心の中です！「真唯一の神様だけを拝んでいれば良い…。イエス様だけを信じて、教会で礼拝していれば、それで良いんだ…」もしも、皆さんがそういうような理解を持っておられるなら、それは間違いではなくても…、聖書の教えとは違っています。大事なのは、あなたの主人です！…あなたが、何を一番に置いて、何を優先なさっておられるか…、ではないでしょうか！

どうぞ、皆さん。今日のみことば、5 節の最後に、『こういう人はだれも、キリストと神との御国を相続することができません。』と警告されてあることに注目してください！…このみことばもまた、本物の信仰と偽りの信仰について、説明 & 警告してくれています。…本当に、この聖書のみことばには、至るところで、このような…、人を救うことができる本当の信仰と、人を救わない偽りの信仰とについて警告してくれています！マタイ 7 章やヤコブ書 2 章だけじゃありません！

明らかに、このみことばでは、性的な罪のことと関連して…、本物の信仰について教えてくれています。…それと、皆さん、気付いてくださいました？…ここでは、「神の御国、天の御国」という言葉ではなく…、『キリストと神との御国』とありますでしょ？明らかに、神よりもキリストの方が強調されています。その理由は、あのイエス・キリストこそが、私たちクリスチャンにとって、最高の存在であるからです！私たちは今、まさにエペソ書で学んでいるように…、神様と、キリストに従い…、キリストを模範として生きていくべきなのです！

最後…、今日のみことばの 6-7 節で、そのことが強調されています。『6 むなしいことばに、だまされてはいけません。こういう行いのゆえに、神の怒りは不従順な子らに下るのです。7 ですから、彼らの仲間になつてはいけません。』⇒残念なことに、この当ても…、また、現代にあっても、いえ、いつの時代であっても、「惑わし」というものは存在します！まずは、その行ないに注目することです！例え、どんなに雄弁で…、また、どれほど素晴らしいことを語っていたとしても…、あるいは、どれほど大きな功績があったとしても、そういったような淫らな行ないを、誰かが行なっているのなら…、その人物は、神様のメッセンジャーではありません！『神の怒り』は、そのような者たちの上に下ります！私たちは、そういった者たちとは、明らかに、一線を画すべきなのです！

<励ましの言葉>

皆さん…、私は、今も、この教会の皆さんが様々な誘惑の中にあつて、勇敢に戦い…、神様に対して

忠実であらうとしておられることを知っています。ですから…、どうか、そのまま、神様に従い続けてください。罪や様々な誘惑、あるいは、この世の間違った価値観などに惑わされないでください！「俺のことを愛しているなら、俺に従え！」というのは、本物の愛ではありません！また…、もちろん、神様に喜ばれることでもないし、皆さんの祝福に繋がっていくことでもありません。

どうか、最後に、来年 1 月に学ぶであろう、8 節をご覧ください。かつては…、私たちが皆、『…暗やみでしたが、“今は、主にあって、光となりました。”光の子どもらしく歩みなさい。』とあります。私たちは、神の光として正しく…、喜びや感謝、また、誇りをもって歩んでいけるのです！この、混沌とした世の中にあつて、真の神様のことを証しして、本当の祝福に預かれる道を知っているのです！…ですから、どうぞ、この神様と、この神様のお言葉である聖書に従い続けてください。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。